SHONAI 世代×地域でつながる

思い出が残るまちは消えない。

これからの時代 欠かせない〝地域力〟

今、若年層の減少や高齢化の進展により、地域の人材不足や絆の希薄化が進み、地域の「活力」が低下していくことが危惧されています。

これからは、地域住民やさまざまな団体と行政が積極的に協働して地域づくりに取り組み、誰もが安心して暮らせる生活基盤を確立していく必要があります。

市では、平成20年から、住民が主役となるまちづくりを進めるため、各地区まちづくり協議会の設立を支援し、地域への分権を進めてきました。

さらに、平成25年度からは、地域の課題解決を後押しするため、「都城市地域活性化事業」を実施し、地域の力で地域の課題を解決する取り組みを支援しています。

本事業を通じて、住民が自ら、地域のさまざまな課題に目を向け、その課題に沿った事業を立案し、実施することが定着し始めていて、自発的なまちづくりが着実に進んできています。

都城市庄内地区。

――「近所のおばあちゃんが、夜ごはんとか野菜を届けてくれるの」

――「子どもが学校から帰ってくるとき、野菜をもらって帰ってくるんですよ」

人口減少や住民の高齢化などによりさまざまな問題を抱えていたこのまちで、変化が訪れつつあります。

隣に住んでいる人を知らないなど、地域のつながりが薄れている昨今。

今回は、このまちに起こった変化をひもときます。

◎問い合わせ　総合政策課　☎23－7161

地域活性化事業

地域活性化事業では、平成25年度から令和2年度までの間に、住民が主体となって市内全15地区で253事業に取り組みました。

【主な事業】

- 島津灯ろう祭り賑わい創出事業（姫城）
- スマイルカフェ祝吉事業（祝吉）
- 「石川理紀之助」交流事業（山田）
- 高崎縁結び促進事業（高崎）

動き始めた庄内地区

庄内地区でも、地域活性化事業を活用し、鳥獣被害対策や防災対策などに取り組んできました。庄内地区は、乙房町、関之尾町、庄内町、菓子野町の4町で構成されています。このうち、庄内町では、年々人口が減少。一方で、乙房町では子育て世帯を中心に人口が増加し、次々に新しい住宅が建設されるなど、地区によって抱える課題が異なります。

このような状況に以前から危機感を持っていた庄内地区の住民たち。「自分たちの住むまちを維持し、発展させていくためにできることはないか」この思いが庄内地区に変化をもたらすことになるのです。

＼庄内町の／みーとん完成までの軌跡

自分たちのまちと向き合う

県が実施した人口減少対策ワークショップに参加し、自分たちのまちの現状と改めて向き合った庄内地区の住民たち。
ここでは、庄内町に新たな交流拠点「みーとん」が生まれるまでの道のりをたどります。

将来まちが消える?! 人口減少対策ワークショップ

令和元年度、県の人口減少対策ワークショップに応募した庄内まちづくり協議会（以下、庄内まち協）。このワークショップは、住民自ら地域の将来を見つめ、10年後、20年後に起こり得る課題や、将来に備えて取り組むべき事項について話し合うものでした。

全5回開催されたワークショップ。1回目は、10年後にどのくらい人口が減少するかを予測するシートを使って、地区の現状と将来の人口減少の見通しを確認しました。

予測の結果、20年間で人口が22・7パーセント減少し、高齢化率は4ポイント上昇することが判明。参加者は「まちから人がいなくなってしまう」など危機感を募らせました。

まちを存続させるために

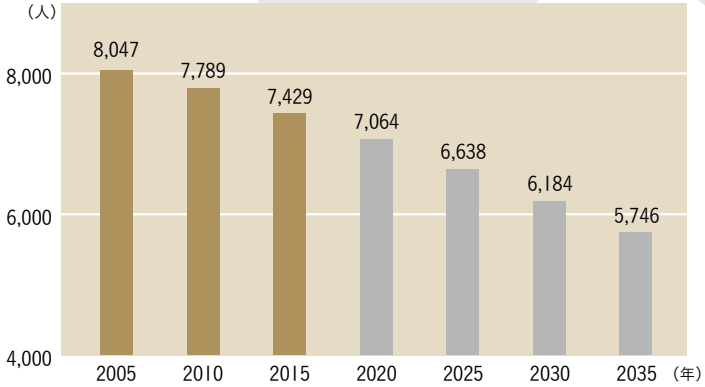
このままでは、今まで通りの生活を送るのが困難になり得る状況を目の当たりにした参加者たち。

2回目以降のワークショップでは、居住する町ごとにグループに分かれて、まちを存続させるために何が必要か、そして、自分たちはどのような役割を果たすべきかを考えました。

そして、住民同士のつながりをより深めるため「地域の交流拠点をつくりたい」という最終的な方向性が決定。施設の目的や運営方法など、具体的なアイデアを突き詰めていきました。

5カ月間かけて実施したワークショップには、若者から高齢者まで、乙房町・関之尾町・庄内町・菓子野町全ての地域から延べ149人もの住民が参加しました。

●庄内地区における総人口の推移と推計値



※2020年以降は推計値【県作成ひなたまちづくり応援シート】

人口減少対策ワークショップの様子

みーとん会議の様子

住民自らが考え、動く

ワークショップでは、庄内町と乙房町のグループから「どのような交流拠点にしたいか」という具体的な計画が提案されました。

そこで、令和2年度から、「宮崎ひなた生活圏づくり地域課題解決支援事業」を活用し、この2つの地域で交流拠点づくりが始まりました。

庄内町のまちづくり

庄内町では以前から、都城工業高等専門学校（以下、高専）建築学科の杉本研究室が、地域で活動するNPO法人「手仕事舎そうあい」と連携。「地域のみんなでまちを元気に」をスローガンに、まちづくり・まちおこしに取り組んできました。

その取り組みは、ツリーハウスの制作や、空き家をセルフリノベーションした「かけるくんのおうち」の運営、小・中学生への勉強相談「KOSEN塾」など多岐にわたります。

令和2年度には、これらの取り組みを土台として、交流拠点の在り方や使用方法、地域住民にどのように活用してもらうか1年にわたり検討を重ねました。

地域ぐるみの検討会議

検討に当たっては、庄内まち協や高専、NPO法人をはじめ、各自治公民館長や地元企業など、さまざまな立場の人たちで構成された準備委員会を立ち上げました。それから半年間にわたり、月1回のペースで「みーとん会議」を開催。多様な視点から熱い意見が交わされました。

拠点となる施設は、地域の空き店舗を所有者の厚意で、5年間無償提供してもらうことに。このように住民の協力を得ながら、地域ぐるみの取り組みが着々と進んでいきました。

手作りのリノベーション

地元業者の協力の下、電気や水道などの工事が行われた後、高専生によって内装作業や家具作りなどが行われました。また、「みんなで作る」をキーワードに、地域の子どもたちもウッドデッキ作りやペンキ塗りに挑戦。文字通り、みんなで手作りした施設が完成しました。

また、令和3年度は、乙房町の取り組みとして、旧ながやまミートショップ跡に交流拠点の整備を進めています。

目指す未来を語る

拠点として生まれ変わったMeet-on（みーとん）。その立ち上げに深もらいました。

Story 1 地域の交流拠点をつくりたい

朝倉事務局長：庄内地区にある4町のうち、特に庄内町と関之尾町の人口減少が激しい。地区全体で言うと、ここ20年で千人くらい減っていて、このままではさらに人口減少と高齢化が進むことが予測されています。そこで、杉本先生にもアドバイスをもらいながら、自分たちの手ですぐに取り組めることを検討した結果、シャッターが閉まっている庄内の空き店舗の一つを借りて、子どもからお年寄りまで集える拠点づくりをしようということになったんです。

杉本准教授：人口減少は確かに問題ですが、まちに関わる人口構成がアンバランスになってしまっていることが一番の問題。まちづくりに高齢者だけではなく、30代～40代の人らを巻き込むために、交流拠点「みーとん」をつくることになりました。以前から、空き店舗の増加は庄内町の大きな問題でもあり、「みーとん」を機に、空き店舗のイメージを変えたいという思いもありました。

ウッドデッキの材料は地元からの寄付

学生による手作りのリノベーション

Story 3 まちづくりは一歩ずつ

朝倉事務局長：庄内地区まちづくり協議会を設立して12年になりますが、歴代の会長が皆さん前向きなんです。最初のきっかけとなったワークショップも、とにかくやってみようという姿勢で。小さな一歩一歩ですが、12年という時の中で庄内地区は着実に変わってきています。

杉本准教授：「誰かがやってくれるじゃない。自分たちでやろう」という意識が強いですよね。

朝倉事務局長：今年度は、乙房町でも「みーとん」とは異なるコンセプトの交流拠点が完成予定です。今まさに新たな一歩を踏み出しています。

「子どもたちが帰ってきたくなる庄内に」

庄内地区まちづくり協議会

事務局長　朝倉 脩二 さん
（庄内町）

市内のIT関連企業を定年退職した後、平成22年より庄内地区まちづくり協議会の事務局長として奔走。現在に至るまで、コミュニティバスの運営など本協議会の取り組みを推進することで、庄内地区のまちづくりに貢献している。

Meet on 「みーとん」が

今年４月、まちの空き店舗をＤＩＹリノベーションし、地域の交流く携わった２人に、「みーとん」に込めた地域の思いをたっぷり話して

Story 2 人を巻き込む仕掛け

杉本准教授：ＤＩＹスペースでは定期的に工作教室を開催。外の黒板に告知するだけで、子どもたちが学校で宣伝してくれる「口コミ」が絶大な効果を発揮するんです。

朝倉事務局長：ここには、電動のこぎりなど杉本先生ならではの道具が揃っています。以前、市外から若い夫婦が大きなベッドを作りに来たことがありました。どうやってここの存在を知ったのか分からないんですよ。おそらく、口コミでしょうね。

杉本准教授：このインターネット社会で、完全にアナログですよね。でも、「みーとん」はアナログな出会いを広げる場でいいんじゃないかと思っています。

朝倉事務局長：ここも限られた費用でリノベーションしたので、全てを希望通りに作ることはできなかったのですが、足りない部分は高専の学生たちが壁紙を張ったり、子どもたちと一緒に色塗りをしたりとさっそく交流拠点になっていましたね。

みんなで看板づくり。完成も間近！

小さな手で一生懸命ペンキ塗り

Story 4 子どもたちに伝えたいこと

朝倉事務局長：今後は、「みーとん」でのイベントや移住相談などをきっかけに庄内地区を訪れて、まちの雰囲気を感じ、庄内を選ぶ人が増えることを期待しています。同時に、庄内に住む子どもたちに自分たちのまちの良さを伝えて、将来ここに帰って来てくれたら一番いいですよね。

杉本准教授：庄内の子どもたちに、「ここで工作をしたよね」「ハロウィンにはまち歩きをしたよね」という思い出をたくさん記憶に残してあげたい。「このまちに住みたい、このまちが好き」という気持ちを育てていきたいですね。

「空き店舗活用とまちづくりをつなげる」

都城工業高等専門学校建築学科

准教授　杉本 弘文 さん
（庄内町）

平成27年、Mallmall（まるまる）整備のための委員会に参加し、庄内のまちづくりに長年携わってきたNPO法人「手仕事舎そうあい」代表に出会う。その後、研究室の生徒たちと共に庄内町で地域に根差した活動を行ってきた。

ヒト・モノ・コトが出会う場所

「みーとん」の内部大公開！

元々精肉店だったこの場所。地域住民の記憶に残し、カタチを変えて受け継がれ、さまざまなヒト・モノ・コトが出会う場（meet-on）になることを願い、会う（meet）と肉（meat）と豚（ton）をかけて「みーとん」と名付けられました。ここでは、さまざまな用途で利用できる「みーとん」の内部を紹介します。

Facebook

1 コワーキングスペース

2 個室スペース

3 ショーケース

4 フリースペース

1 2 在宅ワークなど、会社という「場所」に属さない働き方を支援する環境を整備。また、オンライン会議やウェブコンテンツの作成などにも利用できます。

3 ハンドメイド作品や絵本などの販売スペースとして活用できます。

4 読書や自由に過ごせるスペースを用意。学習支援や子育ての悩みの共有など、地域内外の人の接点を創出します。

5 小さな子連れでも安心の畳スペース。

6 各種電動工具やホワイトボードなどを完備。「地域の工作室」として利用できます。また、都城高専学生による子ども向け工作教室も定期的に開催します。

7 入口横にある日当たりの良いウッドデッキ。おしゃべりにも花が咲きます。

5 キッズスペース

6 DIYスペース

7 ウッドデッキ

利用案内

◉**住所** 庄内町12634（旧溝ノ口精肉店）

◉**営業時間** 10時～17時 ※不定休

◉**料金** 3時間以内：500円
1日：千円

◉**設備** 電源、コピー機、ドリンクサービス、冷蔵庫、レンタルボックス、インターネットWi-Fi など

問 Meet-on（みーとん）
☎77－8486

interview

都城工業高等専門学校
（左から）建築学科５年 **吉﨑 紫苑（しおん）さん**　専攻科建築学専攻２年 **立元 廉（れん）さん**

所属する研究室の活動をきっかけに、まちづくりに興味を持ち、みーとんのオープンに携わりました。壁紙の張り替えや本棚の組み立て、外に設置したウッドデッキの枠作りなど、ほとんどを自分たちの手でDIY。こうして無事にみーとんが完成し、地域の皆さんに利用してもらっていることが本当にうれしいです。

たくさんの素敵な出会いや、ものづくり・まちづくりの経験ができ、自分を見つめ直すきっかけになったみーとん。完成後は、作業や勉強をしながら長い時間をみーとんで過ごすにつれ、自分たちにとっても欠かせない、大切な居場所になりました。

「つながりを大切に、次の世代に楽しくつないでいきたい。大好きなこのまちでーー」

新たに動き出した乙房町

一方、乙房町でも、新たなプロジェクトが始まっています。

同町は、近年子育て世帯が急増していて、移住した世帯と、古くから住む世帯が混在し、地域のつながりが薄れている状況にありました。

そこで、令和2年10月、住民が中心となり、地域活性化グループ「乙La房.（おとらぼ）」を結成。町内にある空き店舗に拠点を整備することを計画し、地元企業や自治公民館などの協力を得ながら、オープンに向けて準備を進めています。

「〝地域をみんなでつくる〟という意識を高めたかったんですよ」そう話すのは、会長を務める刀坂まやさん。30代～80代が所属する乙La房.は、とにかくパワフルで、地域のみんなで楽しむことに全力を注ぎます。

「畑を作る元気がないおじいちゃんがいたら、〝代わりに作るよ〟と手を差し伸べられるようなまちにしたい。人はひとりでは生きていけないから、誰ひとり孤独にならない、自分たちの力で、つながっていけるまちがつくりたくて」乙La房.が企画するごみ拾いイベントやジンジャーエール作り、早朝のカブトムシ採りは、口コミですぐに人が集まるほど大人気です。

みんなで楽しく、「やってみよう」に賛同し、自分たちの力でさまざまな地域イベントを誕生させるこのまちは、まだまだ何か楽しいことが生まれてきそうな予感がします。

思い出が残るまちは消えない

―自分たちの住む地域と向き合い、愛着や誇りを持つことで、人と人はつながり、新たな世代へ受け継がれ、地域を支えていく―　その過程を、今回庄内地区で垣間見ることができました。

子どもの頃に、近所のおじちゃん、おばちゃんたちと地域で楽しく過ごした思い出は、ずっと記憶に残っていくのでしょう。そして、そのまちで育った子どもたちは、大人になってその地域でまた思い出を作ります。新たに世代をつなぎ、地域で人と人がつながっていく。そうやって、そのまちは、10年後、50年後も在り続けるのでしょう。